

設立趣旨

「しろはく」は平成12年5月15日築城史の研究と築城資料の収集を目的として設立されました。ベースとなりましたのは、40年に渉り、調査研究と収集した城絵図、地図数千点と城郭文献、各地調査報告書数万冊、城古絵葉書数万数、城版画等総数8万点の資料で構成されています。

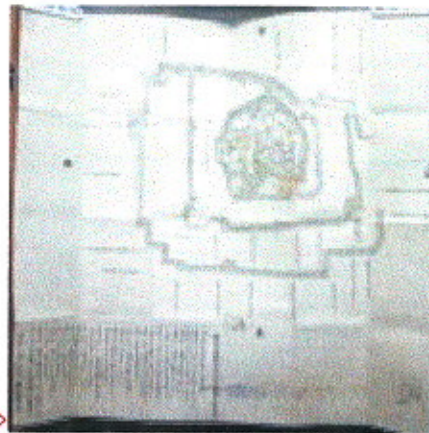
設立の動機は平成8年5月18日所属している東京古地図倶楽部の要請で、城と城絵図の世界というテーマで、所蔵する絵図の代表的なものを体系的に整理し、日本築城史を絵図と錦絵によって見ていただいたことに始まります。お目にかけたのは、大坂城の寛政5年修理絵図、安土城の貞享4年城址調査図、岩村田城新築設計図、近世城郭の修理願図、数多くの千早城を始めとする中世城郭図、品川、天保山を中心とする幕末海防要塞絵図明治以降の城址の変遷を辿る城下町市街図等で、遠く離れた書庫から移動させ始めて公開しました。この時に、大略、日本の城を絵図、地図、錦絵、絵葉書等の生の記録によって辿るというコレクションの目的が完成したことを意識しました。



＜寛政年間大坂城修理絵図群の内本丸絵図部分＞



＜近江安土城絵図＞



＜姫路城修理



絵図＞＜品川台場築城泥絵＞



＜品川



台場完成泥絵

〈越後高田市街鳥瞰図〉

すなわち、城郭研究家としての視点からみた城絵図集成、それは決して単なるコレクターとしての産物とは、一味違うものと感じました。この完成という意識をもって、今後の進め方を検討していた時に、平成10年11月信州上田市で、池波正太郎真田太平記館が完成する。それを記念したイベントを実施したいので、協力してほしいとの要請をコレクションの絶大な協力者である知人からいただき、主催者の上田商工会議所と協議した結果、戦国時代の城と合戦絵図展というテーマで、真田と武田の築城史を絵図と錦絵によって再現することにしました。

会議所の大ホールを全面使用し、武田の本城、躑躅が崎の館絵図を多数を比較し、甲斐信濃の山城絵図で真田の活躍の跡を追ひ、川中島や長篠合戦を絵図と錦絵で味わい、真田の独立と攻防を眺め、大坂合戦までの上杉、北条、徳川、織田、豊臣との軍略の跡を城遺跡から通覧しました。

最後に江戸時代の机上論としての城築学を兵法書と縄張り絵図で取り上げ、幕末の新築設計絵図、明治の廃城後の変遷を絵図と市街地、例えば、明治6年巨大な上田絵図で見いただきました。この展示会は始めて絵図によって真田築城史を描いた事、全て、複製でなく、オリジナルであり、手刷り錦絵や手書き絵図の雰囲気を感じたこと、さらに、出品資料の全てが初公開であり、一週間という短い会期に1000人以上の方に観覧いただいた。



〈加賀藩兵学者有沢武貞 兵法書〉

そして、この展示会で明確に古地図と城の博物館、富原文庫の名称を使用しました。これをきっかけとして、このまま、膨大な資料を東京・大阪に分割所蔵する不便を検討し、平成11年5月22日分割所蔵していた資料を東京に集約、その後、丸一年をかけて、山のような資料と格闘し、城文献、絵図地図、古書籍、古絵葉書を分類整理し、ようやく、平成12年5月15日正式に事業活動を開始するに至りました。

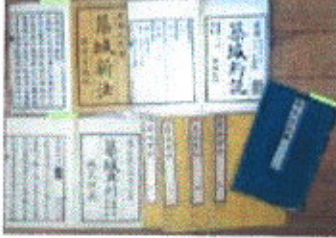


〈幕末錦絵歌川芳虎備中高松城水攻めの図6枚続き揃え〉

しらはく設立目的

1

武家時代から今日まで築城史を彩る調査研究の顕彰
 戦前¹²²から江戸にかけての実践的城研究、¹²³えどの兵法家としての城調査、絵図調査、
 幕末の西洋築城学の翻訳書、戦前までの軍部の築城史研究
 ほとんど、省みられない先人の偉業を正確に評価顕彰したい



<江戸期築城翻訳本>



<明治軍部築城資料>

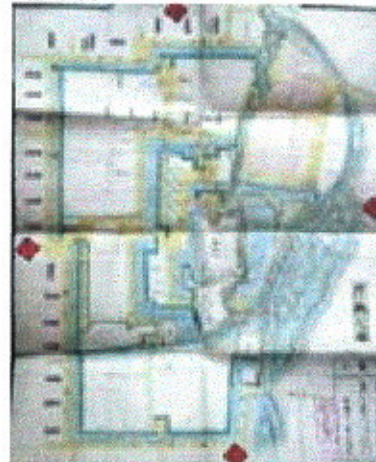
原本>

2

古代から最近世にいたる特徴ある絵図の集成
 城郭史研究者としての視点から見た、絵図地図を集大成させる
 古代城柵の江戸期の資料、中世城館の調査絵図、近世城郭の縄張図
 丁場割図、修理願図、建築絵図、最近世城郭要塞の設計図



<中世城絵図上州箕輪城絵図>



<近世城絵図>



<弘前城絵図>

<明治初期函館絵図部分>

3

破壊された城、改変され¹²³た城の各時代の姿を絵図に探る
 発掘は破壊を伴う、現代研究者の奢りである。
 城跡の今を保存し、未来に委ねる絵図地図古記録から真理の姿を明らかにする。



<幕府巡見使調査江戸期遠野城郭絵図>

4

明治以降の城の変遷を地図に探る。

変化の激しい現代社会のベールをめくり、記録された絵図、地図、絵葉書によって城跡の変遷をみる。明治以降の城下町の市街地図の検証



<明治地籍図河内高屋城跡>

5

近江安土城屏風下絵の検索

城郭界永遠のテーマである信長がローマ法王に献上した安土屏風の下絵の発見

4枚目の貞4年城跡図を発見收藏、想像でない安土の真の姿を明らかに



<近江安土城絵図>

上記を達成する為、全国規模の城郭資料の収集を実施している。

しろはく事業計画 I

城郭資料の検索分類整理

1

過去40年の長きに渡り、全国の古美術流通業界者とコンタクトし、城絵図発見の旅に東奔西走している

これまで、幕府鉄砲方井上貫流の膨大な砲術資料や
地図資料、多くの旧大家の所蔵城絵図を収蔵



<幕府砲術方井上貫流旗及び大砲設計図>



<江戸板橋徳丸が原砲術訓練記録>

2

近年の城調査報告書、城文献は各地市町村の教育委員会の協力、各地専門流通業者、城郭研究者

の協力に負うところが大きい。

特に、幕末から明治前半の資料の発見は困難を究める。



<城文献広島県>



<城調査報告書図解山城探訪>

3

近年の城郭文献の入手は困難を究めており、広く、城郭研究者間の図書交換の機会をつくり城郭研究の進展に寄与したい。

その為、年数回の交換目録を作成、数千点規模の城資料を紹介します。

しろはく事業計画Ⅱ

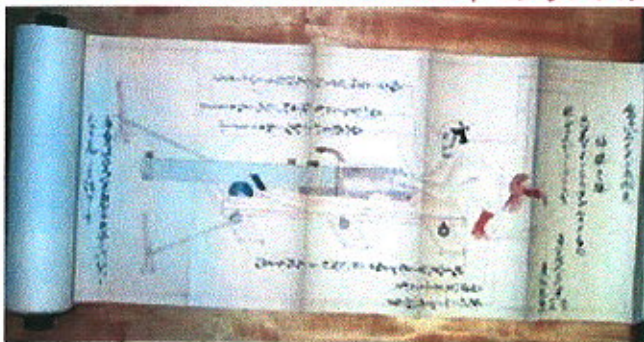
城郭資料の公開

1

スペースの関係で、常設展示はできません。
変わりに、依頼によるテーマ展を開催します。
テーマについては、依頼者と協議します。



＜1680年モンタヌス日本誌挿絵大坂城＞



＜江戸初期大筒秘伝書＞

2

所蔵資料の内、刊行物については、別途規約を定め、著作権に触れない範囲で、複製の便宜を計ります。

3

公開の手段として、今後、時間と予算の許す範囲で、所蔵資料の絵葉書による複製を行い、頒布します



＜城絵葉書明治大坂城調査記録濠底潜水視察実景＞

4

インターネットのホームページを開設し、しろはくと所蔵資料の公開を行います。

5

将来は、少数の方に限られた時間お越しいただき、資料の閲覧ができるよう検討します。
たとえば、日曜日の午後に・・・。



竹
＜小松益喜画但馬賣田城址＞



＜播磨姫路城二曲半双屏風＞



＜杉戸絵城＞

熊本城南面絵図＞



＜木版木＞

しろはくの所蔵資料

所蔵資料については、前述の方法によって、順次公開しますが、時と予算の許す限り、テーマ毎の目録を作成します

目録作成テーマ

1 日本築城史文献目録 「幕末から近年まで編年別編集」



<日本築城史文献編年書架>



<江戸期

築城翻訳本>

2 個別城文献目録 「北海道から沖縄まで、城別編集」



<個別城文献書架長野県>

の内

3 城絵図地図目録 「城絵図、市街地、刷物」



<城絵図地図県別城別分類書架の一部>



＜江戸城天守屏風部分＞



＜上杉謙信本城春日山城絵図＞



＜大正広重吉田初三郎原画大阪府鳥瞰図＞
「江戸期城著作、城築兵法書」

4 城古典籍目録



＜加賀藩兵学者有沢武貞 兵法書＞

5 城錦絵版画目録

「城別、合戦別」



＜貞秀錦絵播州姫路城築城図＞



＜ちりめん版画西国名所姫路城天守＞



＜幕末＞

錦絵歌川芳虎備中高松城水攻めの図6枚続き揃え＞



＜拓本名古屋城天守角石垣加藤肥後守文字刻＞

印＞全国城石刻印編纂拓本の内）

6 城古絵葉書目録

「北海道から沖縄まで、城別編集」



＜城絵葉書明治大坂城調査記録濠底潜水視察実景＞

7 戦史文献目録

「時代別編集」

8 城地図関連周辺目録

「交渉史、印刷文化史、地図史、砲術史、版画、地方史書誌、国史文献所蔵目録、複製地域別地図」